

今こそ「戦争への道」許さぬ決意を固めよう

宮澤・レーン事件、秘密保護法廃止市民集会アピール

「戦争への道」につながる秘密保護法を断固廃止させるために「宮澤・レーン事件」の真相を引き続き広めて行く。北海道大学に対しては「心の会の碑」（仮称）建立に全面的な協力を要請する——。『12.7 宮澤・レーン事件、秘密保護法廃止市民集会』に結集した一同は、以上二つの課題達成のために、札幌市民をはじめ、全国のみなさんに対して、新たな決意を込めて賛同と協力を訴える。

安倍政権は昨年秋以降、特定秘密保護法可決、武器輸出三原則廃止、原発再稼働表明と海外への売り込み、集団的自衛権行使閣議決定、沖縄辺野古米軍基地建設工事開始、貧富格差拡大の経済政策、非正規労働者を増大させる雇用政策、介護保険制度改悪、生活保護切り下げ、消費税増税等々を強行してきた。これら安倍政権の諸政策は、「憲法無視」「民主主義の抹殺」ではないか。北星学園大学とその講師に対する脅迫もこの中で起きたのではないか。一週間後に実施される第47回総選挙では、暴走する安倍政治をストップさせるために、全国民が立ち上がることを呼びかける。

この一年余、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」は、「真相を広める会」の活動、北大OBはじめ危機感を持った多くの方々の協力、マスコミ報道等によって注目され、特定秘密保護法が狙う国民弾圧の本質を暴露するために大きな役割を果たした。昨日12月6日、強行可決から満1年を迎えたが、秘密保護法廃止を目指す運動は、全国各地で草の根のように、確実かつ展望を持って継続・発展している。宮澤弘幸の弾圧に抵抗した不屈の信念を改めて顕彰し、「真相を広める活動」を、さらに継続発展させていく。

北海道大学は、運動の広がりの中で、宮澤弘幸スパイ弾圧は冤罪であることを正式に認め、宮澤弘幸を顕彰する「宮澤賞」創設を表明した。しかしながら検証と遺族への謝罪要求には明確な姿勢を表明していない。宮澤弘幸とその精神を育んだ「心の会」顕彰を目的とする「心の会の碑」（仮称）建立に対する協力を要請には、いまだに明確な回答をしていない。丹保憲仁・中村陸男両元総長はじめ6人の呼びかけ人を先頭に、建立を求める世論をさらに喚起して、北大の決断を求めていくことを確認する。

11月、沖縄県民は、安倍政権の理不尽かつ執拗な辺野古への米軍基地建設要求に対して、真っ向から異議を唱えたオナガ知事を誕生させた。秘密保護法、集団的自衛権行使閣議決定をはじめ「憲法破壊」「戦争への道」に対する日本国民の怒りと抵抗、そしてそれを跳ね返そうとする決意と連帯の行動は全国各地で発展している。

宮澤・レーン事件、秘密保護法廃止市民集会に参加した一同は、秘密保護法が強行可決された12月6日と宮澤弘幸を弾圧した12月8日の2つの日に対する無念と怒りを込めて、今日12月7日、「戦争への道」を許さぬ決意を固め訴えるものである。

2014年12月7日

「宮澤・レーン事件、秘密保護法廃止市民集会」参加者一同